

新年のご挨拶

明けまして

おめでとうございます。

2010年は日本体育学会が設立されてから60年目に当たります。その後、日本体育学会の一専門分科会として「キネシオロジー」分科会が1957年に発足したことが、日本バイオメカニクス学会の原点です。その後、国際的な動向をとらえて、1979年に日本バイオメカニクス学会となりました。

今年は、本学会の一大事業である第21回日本バイオメカニクス学会大会が8月28～30日の3日間、国士舘大学（東京）で開催され、同時・共同開催のようなかたちで（in conjunction with）アジアスポーツバイオメカニクス学会（ASSB）大会も計画されています。また、International Society of Biomechanics in Sports (ISBS、国際スポーツバイオメカニクス学会)大会も7月19～23日にアメリカのMarquetteにおいて開催されます。

本学会会員の多くはどちらかといえば、欧米の研究動向をとらえ、そちらを向いて活動することが多いようです。しかし、我がアジアも徐々に豊かになり、スポーツをはじめとする人間の身体運動にも目が向けられるようになってきており、身体運動の科学研究では不可欠のバイオメカニクスの重要性が認識されてきました。ちなみに、今年の9月に中京大学で開催される日本体育学会第21回大会でも「アジア」を強く意識した企画が計画されているようです。このような機運が高まってきたとき、アジアの同僚と協力しながら、上述したASSB大会を日本で開催することは非常に意義のあることです。また、自然現象や人間を細かく分析して、その要素的本質に迫るという欧米の考え方に対し、身心をあまり分けないで全体として考えるという東洋の思想は、われわれにも潜在的に備わっており、これまでと異なった研究視点を提供してくれると思います。

バイオメカニクスは科学の基礎的領域に属しますが、本学会員の多くは体育・スポーツ出身であり、運動やスポーツの実践と関わっています。したがって、本学会は、体育・スポーツ、健康のための運動、トレーニング、リハビリテーションなどの分野、さらにこれらの指導に関する分野、体育教育、方法学、コーチングなどにも多大な貢献ができるはずです。これらの応用・実践領域に関わることが、会員の多くにメリットになると考えており、本学会が2010年に力を注入すべきもう一つの点であろうと考えています。

今年も活発な研究活動および交流活動を期待いたします。

2010年1月

日本バイオメカニクス学会会長 阿江 通良